



俳諧大陽六百歌

宇山著





輪飾	十一	飾海老	十一	飾葦	十一	太管	十一	庭竈	十二
震白	十二	橙	十二	水祝	十二	年男	十二	萬歲	十二
豫曳	十三	傀儡師	十三	懸想文	十三	小殿原	十四	敷の子	十四
鏡餅	十四	姫ヶ君	十四	福壽草	十四	水様	十五	國栖奏	十五
懸鯛	十五	腹赤魚	十五	螺肴	十五	番印	十五	網曳	十五
羽子	十五	手鞠	十六	人日	十六	七種	十六	粥柱	十六
粥杖	十六	若菜粥	十六	若菜	十六	芹薺	十七	佛の坐	十七
子の日	十七	小松曳	十七	常陸帶 神事	十七	刺懸	十七	左義長	十八
爆竹	十八	養父入	十八	骨正月	十八	侍忌	十八	寒の入	十八
寒月	十九	寒菊	十九	寒梅	十九	寒椿	十九	探梅	十九
寒聲	十九	寒念佛	十九	春待	十九	春近	二十	春隣	二十
二月之部	二月二十	春立	二十	餘寒	二十	春寒	二十一		

冴返	二十一	春雪	二十一	淡雪	二十一	雪餅	二十二	淨水	二十二
霞	二十二	長閑	二十三	暖	二十三	水溫	二十四	日永	二十四
遲日	二十四	伏保姫	二十四	山笑	二十五	東風	二十五	春風	二十五
春雨	二十五	木地炒録	二十六	下蒨	二十六	莖立	二十六	落莖	二十六
土筆	二十六	若草	二十七	木の芽	二十七	梅	二十七	梅柳	二十八
柳	二十六	青柳	二十九	椿	二十九	田打	三十	畑打	三十
山葵	三十	獨活	三十	白魚	三十	猫の戀	三十一	鶯	三十一
百千鳥	三十一	鶯	三十一	雲雀	三十一	駒鳥	三十一	轉	三十一
蜺	三十一	海苔	三十一	若和布	三十一	二日灸	三十一	初午	三十一
几巾	三十一	薪能	三十一	芝能	三十一	涅槃	三十一	堂若六の山	三十一
西行忌	三十一	春宵	三十一	春夜	三十一	春月	三十一	朧月	三十一
朧夜	三十一	春空	三十一	春	三十一	三月之部		弥生	三十一

冷汁 空	古茶 空	綿板 六十	葉降 六十	幟 空	別霜 七七	田鼠化 成鶴 七七	若鮎 空	董 空	石楠花 空	鈴 空	鍋祭 空
黃冷 空	生節 空	初裕 空	競馬 六十	粽 空	惜春 空	蠶 空	小鮎 空	青麥 空	躑躅 空	待花 空	灌佛 空
鮎 空	新麥 空	裕 空	大矢敷 六十	柏餅 空	行春 空	爐塞 空	喚子鳥 空	薊 空	茶摘 空	櫻 空	花御堂 空
牡丹 空	紗 空	夏衣 空	印地打 空	葛蒲茸 空	五月之部	試茶 空	麥鷄 空	櫻鯛 空	藤 空	桐花 空	佛の産湯 空
餘花 空	青さし 空	新茶 空	更衣 六十	神水 空	五月 空	鞞 空	雲子鳥 空	櫻貝 空	山吹 空	辛夷 空	汐干 空

春の山 空	壬生躍 空	蛇穴出 空	松尾鳥 空	雁列 空	三月菜 空	初櫻 空	紅梅 空	帝杖 空	燒野 空	社日 空	雜 空
四月之部	梅若祭 空	田螺 空	蛙 空	春雁 空	菜の花 空	糸櫻 空	接木 空	野蒜 空	五加水 空	治薺酒 空	草餅 空
四月 空	順の峰 空	馬刀 空	蜂の巢 空	春鳥 空	乙鳥 空	芽花 空	芦の角 空	摘草 空	種年 空	出代 空	曲水 空
卯月 空	御身拭 空	落角 空	初蝶 空	雀子 空	雉子 空	桃 空	蕨 空	枸杞 空	苗代 空	彼岸 空	鷄合 空
青籬 空	春水 空	蛸繪 空	蝶 空	孕雀 空	鯉雁 空	竹の秋 空	初花 空	尙脊 空	菊苗 空	松の花 空	初雷 空

桑櫻	空	櫻の實	六五	若葉	六五	若、楓	六五	病葉	六五
新樹	空	茂	空	木下關	空	夏木立	空	卯の花	六六
桐の花	空	浮の花	空	橘の花	空	花柚	空	竹の子	六七
杜若	空	花菖蒲	空	芥子	空	葱	空	帚耳草	六八
落	空	美人草	空	一八	空	垂芭蕉	空	夏草	六八
麥秋	空	麥芥	空	五月雨	空	竹醉日	空	帚ヶ雨	七〇
夏籠	空	夏書	空	短夜	空	明易	空	夏夜	七一
時鳥	空	老鶯	空	附子鶯	空	割葦鳥	空	行々子	七二
青鷺	空	閑子鳥	空	通鴨	空	鶉飼	空	翡翠	七四
蚊	空	蚊柱	空	蚤	空	蠅	空	蚋	七六
蛭	空	螢	空	蚊遣	空	蝙蝠	空	枝蛙	七七
蝸牛	空	羽蟻	空	子子	空	水馬	空	舞々	七八

松魚	空	懶	空	蚊帳	空	紙帳	空	扇	空
團扇	八十	日午	八十	夏の山	八十	夏野	八十	夏月	八二
夏の露	空	夏の雨	空	夏	空	六月	空	六月	八二
入梅	空	船風	空	祇園會	八三	雨乞	空	嘉定	八三
雷の陣	空	柿枝	空	川社	空	飛代	空	田植	八三
苗	空	河骨	空	藻の花	空	萍	空	忘草	八五
紅の花	空	百合	空	苔の花	空	夏菊	空	撫子	八六
石菖	空	金銀花	空	合歡花	空	栗の花	空	拓榴花	八六
桑摘	空	青梅	空	青柚	空	茄子	空	今年竹	八七
若竹	空	蟬	空	浮巢	空	水雞	空	羽拔鳥	八八
鹿の子	空	照射	空	火串	空	籬	空	草物	八八
晒布	九十	帷子	九十	辻ヶ花	九十	七月之部	九十	文月	一



初改	今日の月	秋の空	龍田姫	沙魚	鳴子	鳩吹	秋蝶	蛭蚓	蓑虫	虫	稻の花
五	三	五	十	五	六	五	六	五	五	三	三
放生會	月今宵	秋の月	秋の山	鹿	引板	鴨	秋の蠅	蟻	茶立虫	鈴虫	粟
五	三	三	十	五	五	三	五	五	五	三	三
秋の夜	月見	初月	秋の川	秋の樹	鳴竿	鶉	残蚊	竈馬	蛸	松虫	蜀黍
五	三	三	十	十	九	三	六	五	四	三	三
秋の雨	十六夜	待宵	秋の水	樹列	鳥	鶉	蟲	秋螢	秋の蟬	澁虫	綿取
五	五	三	十	十	五	五	五	五	五	三	三
秋の鐘	月	名月	秋の聲	司	鱈引	紫山子	鷹山別	蜻蛉	蟻	蟋蟀	桃吹
六	四	三	十	十	九	八	六	五	五	三	三

崩築	澁船	雁	稻雀	木の子	蕎麥花	露草	木犀	身入	竹の春	十三夜	秋
五	五	五	五	三	五	五	十	五	八	七	六
砧	落船	渡鳥	小田守	松茸	若菜	尾花	芙蓉	彼岸	夜長	後の月	九月の部
六	六	五	五	三	三	五	十	九	八	七	六
新酒	鞋	四十雀	新藁	松露	芥子蔣	鶏頭	紫苑	野分	夜寒	月の名残	九月
七	五	五	四	三	三	五	十	九	八	八	二百十日
九月盡	太刀魚	五十雀	歸乙鳥	稻	初茸	水職芥	花野	秋の暮	朝寒	寶の市	二百十日
五	六	五	五	三	五	五	五	十	五	八	後の雛
十月	川	木啄鳥	行乙鳥	稻延	茸	白粉花	梅	梅	冷	樹り市	後の雛
六	六	六	四	四	三	五	十	十	九	八	七

十月	壬午	小六月	壬午	神無月	壬午	神送	壬午	神の祿	壬午
神の魚守	壬午	達磨忌	壬午	御取越	壬午	翁の日	壬午	芭蕉忌	壬午
御命講	壬午	十夜	壬午	蛭子講	壬午	露時雨	壬午	露寒	壬午
秋寒	壬午	露霜	壬午	菊	壬午	苺萱	壬午	我母香	壬午
破芭蕉	壬午	豆引	壬午	赤枯	壬午	葛紅葉	壬午	草紅葉	壬午
紅葉	壬午	野山錦	壬午	色不替松	壬午	柿	壬午	栗	壬午
落水	壬午	尾越鴨	壬午	霜踏鹿	壬午	入雀海中 成蛤	壬午	柚味噌	壬午
新蕎麥	壬午	新米	壬午	今年米	壬午	新綿	壬午	行秋	壬午
秋深	壬午	冬近	壬午	冬隣	壬午	立月之部	壬午	霜月	壬午
初冬	壬午	酉の市	壬午	神樂	壬午	鉢敲	壬午	爐開	壬午
口切	壬午	北窓塞	壬午	冬構	壬午	冬籠	壬午	火鉢	壬午
火桶	壬午	炭埋	壬午	湯釜	壬午	温石	壬午	巨燵	壬午

炭	炭	炭	炭	炭	炭	炭	炭	炭	炭
足袋	紙	衣	布	子	蒲團	余	頭	中	七
小春	初時雨	時雨	風	寒	寒	寒	寒	寒	寒
落葉	木葉	歸花	冬木櫻	冬牡丹	冬牡丹	冬牡丹	冬牡丹	冬牡丹	冬牡丹
山茶花	茶の花	枇杷花	八手の花	松の花	松の花	松の花	松の花	松の花	松の花
散紅葉	枯野	冬木立	水	仙	石落の花	石落の花	石落の花	石落の花	石落の花
粘尾花	枯	萩	枯野	冬枯	冬枯	冬枯	冬枯	冬枯	冬枯
冬野	麥	大根	冬の堀	鶯子鳴	鶯子鳴	鶯子鳴	鶯子鳴	鶯子鳴	鶯子鳴
鷓鴣	水鳥	千鳥	鴨	鴨	鴨	鴨	鴨	鴨	鴨
鴛鴦	冬雁	鷹	雉	力草	力草	力草	力草	力草	力草
木杓	網代	柴漬	竹筍	夜興	夜興	夜興	夜興	夜興	夜興
河豚	華臍魚	生海鼠	納豆	蕎麥湯	蕎麥湯	蕎麥湯	蕎麥湯	蕎麥湯	蕎麥湯

風呂吹	廿五	淺漬	廿六	釣干菜	廿六	眠	廿六	水濁	廿七
冬の日	廿七	冬の月	廿七	冬の雨	廿七	冬の山	廿八	冬	廿八
冬至	廿九	師走	廿九	事始	廿九	臘八	廿九	佛佛名	廿九
雪佛	廿九	初霜	廿九	霜	廿九	初雪	九	雪	九
霰	廿九	雪達磨	廿九	雪車	廿九	橇	廿九	初霰	九
牙	廿九	凍	廿九	初氷	廿九	氷	廿九	氷柱	九
暖鳥	廿九	寒苦鳥	廿九	冬の梅	九	冬至梅	廿九	冬椿	廿九
乾雞	廿九	煤	廿九	鯨突	廿九	樂唯	廿九	鶏卵酒	九
年の暮	廿九	年忘	廿九	餅搗	廿九	年の市	廿九	年木	廿九
年の尾	廿九	年惜	廿九	雜喉寢	九	大三十日	廿九	除夜	廿九

凡例

抑此書を大の序を古とて種出類一  
 集め終て二月より四月までを新とて一  
 準一々を新とて一月とて新とて一  
 一めとて新とて一月とて新とて一  
 一とて新とて一月とて新とて一  
 一きを採るよあはは三月一  
 候神祇の新は古の序に倣ひ其他の多  
 本を季節の随ふ所の部類を定めて集  
 され用ひても用ひざる人皆折りて  
 放て善悪を定むる事とす

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

現存名家

俳諧大陽六百題

栗菴 宇山 編  
一事菴 史葉 校

一月之部

年立

東や花よりゆきとくハまをり

人のせや梅をほむよとくはま

何よりとく人よりとくはま

梅もよきとく人もよきとくはま

とくよきとく人もよきとくはま

とくよきとく人もよきとくはま

海山やとく人よりとくはま

海山やとく人よりとくはま

多モ 柳菴

ウツ 出川

カヒ 対凡

ナカ 竹良

ササ 子園

ササ 洞春

ササ 五雀

ササ 雀









御降

右記より先聞ありし所  
細く記す所ありし所  
御降のありし所  
御降や時ありし所  
御降より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所

鳥  
乙  
子  
守  
魚  
月  
賀  
大  
宇

初曆

右記より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所  
御降より先聞ありし所

早  
琴  
松  
茶  
茶  
竹  
葉  
海  
袋  
石  
良

若水







御慶

辛改

福葉

福沸

福沸

三月十日申時に御慶

屋敷に御慶

折竹の御慶

口折の御慶

挨拶の御慶

おのの御慶

山崎の御慶

子折の御慶

福の御慶

よい事な御慶

おのの御慶

持

竹

高

本

山

山

仙

壽

美

美

美

著藤

十分の御慶

厚藤の御慶

著

著

著

著

著

著

著

著

著

著

著

著

當回

當回を命の花の白ひり

琴

仁

仁

仁

仁

仁

仁

仁

仁

仁



注連飾  
四時風をやはらぐものなり飾 竹 亭左  
又園の景を恒世にまじり 上 美地  
注連をまじりて中より一き一種二種に  
仁里  
むしりて戸は振る及ゆる端恒世に注  
弘左  
可きものなりと一様や恒世にまじり  
文殊  
福うきりやそく及飾 古 柱  
是れは水に於てまじりて子に注  
荷孝  
於飾に注水に於てまじりて人 心  
珍 魁  
於てまじりてまじりて飾 海老  
仁 里  
柄の毛をまじりて飾 海老  
下 山  
仕立りて一式に於て飾 海老  
程 山  
外町の書きにまじりて飾 葉  
角 乙

輪飾

飾海老

飾葉

太著

庭電

子外にまじりて一様うきり葉 宇 山  
左にまじりてやまじりて先種にふ 等 裁  
左にまじりてやまじりてうきり葉にまじりて 杜 炭  
左にまじりて注連目とまじりて子にまじりて 仙 光  
左にまじりてやまじりて注連をまじりて取 下 山  
カ 玉 簾  
古にまじりてやまじりて注連をまじりて取 寧 左  
言きあひの民の葉よ 庭 電 左  
一様を電も注連をの庭 庭 寧 左  
手とまじりて注連をの庭 庭 寧 左  
電にまじりて注連をの庭 庭 寧 左  
注連をまじりて注連をの庭 庭 寧 左  
注連をまじりて注連をの庭 庭 寧 左

裏白

裏白よき山毒の日記うね

少重

裏白のうねいやくまの法もり

うまい

裏白のうねいやくまの表うね

字山

柗や柗りませもふりおよき

侍竹

柗りたりおぼけり切り計り

二休

花舞のまきほほゆぬ水祝

吾池

大よすてあふれりや水祝

茶碗

さよふぬ間こころいり水祝

美山

年秀もよきすくや水祝

竹勢

水いりい迎へるせと柗り

一休

柗りたり水いりいと柗り

寧左

ちよ過き中流の猿登や水祝

卜子

橙

水祝

大紫

年男

人の世の人のくまや水祝

事由

水祝まもりて先へぬれり

柗成

手男もいりまをもまきりり

蓮号

新舞のつらもふりりり

社叢

人手あきあやゆりりり

柗巨

又くよりもあふれりり

氣翁

不似合の柗りりり

子妻

物毎くぬりりり

子之

蓮葉のゆちあゆりり

衣池

葉葉やゆりりり

衣池

葉葉やあふれりり

衣池

葉葉やあふれりり

衣池

葉葉やあふれりり

衣池

葉葉やあふれりり

衣池

萬歳

大紫 小窓

萬葉の草子... 藤原... 草子

藤原の袖... 藤原... 藤原

藤原の... 藤原... 藤原

藤原

傀儡師

懸想丈

母親の... 懸想丈... 梅女

小殿原... 懸想丈... 梅女

鏡餅

数の子

小殿原

鏡餅... 鏡餅... 鏡餅





樹柱

七種やソノ世も春のふゆいそ在  
土境の名も鳴ふ字名や粥柱

竹舎  
ト早

粥杖

骨く鳴新おきめや粥杖

極女

若菜粥

粥杖くろれくこれ 玉竹 妻

極年

若菜

揺いそきせぬをすお や若菜粥

三カハ山 其峰

とーんまてふー みやうれ若菜 粥

ラハリ 祖床

尻鴨もおひのうちや若菜 粥

ミカハ 金屋

出橋もや一竹くそ雲ふ 初玉若菜

安房 女 悦

建寺らおく清りそあけり若菜 粥

上ツ 柳 長

芥薺

さくおくと母の味もや 初玉粥

山

一番きーりりさう 肥若や 芥薺

上ツ 黒表

雨ニりさく清りそあけり若菜 粥

上ツ 柳 女

隣村も種ふあつあ紅 柳まぐぬ

上ツ 柳 女

此世も世のいまひあそもや 紅若菜

上ツ 柳 女

老々あは悲れぬ 若菜り 柳の生

上ツ 柳 女

濁世ー死妻ー 巻々 佛の生

上ツ 柳 女

空々人々ー 巻々 同く若菜 柳の生

上ツ 柳 女

清々くく 柳ー 巻々 柳の生

上ツ 柳 女

子の日

上ツ 柳 女

小松曳

疎少し一之の安んじむ小松の所  
 枝よりを足さくく安小松の所  
 其ゆき一柱の折るや小松引  
 身へ敷く砂や小松引引ちうく  
 小松引くあろや風もさくくく  
 雲左折も引ぬ折もさく小松の所  
 美人へ一於魂くくの聖の小松  
 相性も夢も折くく常陸常  
 結の目を忘の要を常陸常  
 弦を折くく折み一何や常陸常  
 甚五折くく折一或くくくく  
 立向き目折福くく折くく掛

常陸帯  
神事

削懸

由 瀬  
 末 栢  
 看 城  
 少 雲  
 梅 女  
 東 川  
 竹 良  
 吟 風  
 寒 左  
 仙 父  
 号 笠  
 庭 水

左義長

爆竹

ととろ一きうく家も何全削取  
 さ家七折る折も折き折口くれ  
 生家七や折折る折 折のをと  
 高き折折る折とんと折焚き折り  
 業屑も一と一と小村のとんとくれ  
 化粧くく折くく折くく折くく折  
 重積も折くく折くく折くく折  
 折折の折へ退き一折くく折  
 大切く折く折 焚折く折竹くれ  
 穀入の如羅白く折ぬ折折折  
 穀入や回舎折く折折り一折  
 折くく折入くく折天香折折

養父入

李 俊  
 秋 山  
 石 蓮  
 上 山  
 海 仙  
 吟 風  
 梅 女  
 瓶 翁  
 吳 仙  
 吟 風  
 月 折

骨正月

穀入のぬくぬくをうけし枝  
穀入のぬくぬくをうけし枝  
門をきく骨正月の月おくれ  
多はしき骨正月の馳走なり  
三餃子

魚佃や骨正月の早仕舞  
私美

生真——骨正月の小畑板  
宇山

一月も他事あくる骨正月の御忌衣  
芭水

付摩了呼吸吐吸しけや水邊  
荷奈

海よりくちや御忌の朝日歌  
枕眠

言はれ入る者や扱ふよほほ  
羊圓

ふ量をさけ麻油や言はれ入  
玉蓋

降る酒瓶干なり言日和  
玉子住

御忌

寒の入

宵戸の中を毎切つ寒の入  
ト早

ぬくぬくぬくぬくをうけし中言はれ入  
霞舟

そのまはれ御忌の中や寒の雨  
二休

寒月や簾の泣くあま——音  
閑茶

寒月や水のうたをうたう  
柳下

寒月や吹ま——い  
其外

寒簾やちりちりた又ゆる簾のま  
袋帳

寒簾やちりちりた又ゆる簾のま  
ソコ布白

寒簾やちりちりた又ゆる簾のま  
香

寒簾やちりちりた又ゆる簾のま  
宇山

寒梅や着せしるぬき座  
希初

寒菊

寒月

寒梅

寒椿

寒椿や醫者の 拙文けりし  
ふけむしは 二れくわめや寒椿  
薬をたれり 吹よけをききし  
三つ 成り  
香よまや 梅ハけりき  
吹 風  
まひくろく 吹よるま 梅ハ  
礼 頂  
寒者や十才子も 足ぬけり子  
ク 東 山  
寒者の言くらしき 佛音くれ  
若 水  
都子さきき 故ありき 念佛  
サト 寺 御  
世りくく 地を 念佛  
古 水  
何るも 念佛 花の中  
千 之  
喜を 結く 花は ぬれ 粟  
魚 上

探梅

探梅  
香よまや 梅ハけりき  
吹 風  
まひくろく 吹よるま 梅ハ  
礼 頂

寒殿

寒殿  
寒者や十才子も 足ぬけり子  
ク 東 山  
寒者の言くらしき 佛音くれ  
若 水

寒念佛

寒念佛  
都子さきき 故ありき 念佛  
サト 寺 御  
世りくく 地を 念佛  
古 水

春待

春待  
何るも 念佛 花の中  
千 之  
喜を 結く 花は ぬれ 粟  
魚 上

春近

春近  
二三梅も 春近 支度りし  
山 有 栗  
春近や 深雪ありし 人の 春の 春  
山 有 栗

春隣

春隣  
春を 春の 春の 月が 春  
善 月  
春近や 春を 隣の 春の 春  
春 上  
春も 春を 隣の 春の 春  
カ 春 風

二月

二月之部

二月  
石白雨の 餅やく 身も 二月の 春  
等 裁

二月  
一月の 春の 春の 二月の 春  
寒 左

二月  
春の 春の 春の 春の 春  
氣 左

春立

春立  
新雪の 春の 春の 春の 春  
春 湖





浮水

霞

舟のふき板舟一付や水うく  
 山は影置てくやうく水うく  
 舟すれをけく水う池の物一  
 ありり天は青久山う紅い山  
 池畑とさふ桐抄もかきみり  
 水切の鯉まきりうけいけ  
 善ねうち船一灯りるあうれ  
 世は中を平とまきかきこり柳  
 是まき付く度うくけいこ柳  
 是うかきむうくく柳のまうれ  
 水れ柳の穂と水う夕庭  
 新川の庭辺に手柳う柳

交山  
 竹舎  
 對凡  
 蕙餅  
 社叢  
 梅一  
 左岳  
 斗信  
 暁音  
 障籠  
 兼亭  
 柳柳

火を焚きてはさそとそりる  
 年真もも炭焼々山のうけりれ  
 出舟舟人の益うり高う柳  
 のまに打金すけく鳴るの音れ色も  
 せりりし根をさそとそりる  
 牽連ふ馬も柳うく柳をりる  
 根多舟人柳うく柳柳  
 そく雨を晴小口柳り遠  
 瓦山も瓦柳り人れ柳うけり  
 手まのさけす柳りをよそあう柳  
 四方を海より吹く柳うれ  
 あくそりりうく峰のかけさうれ

舟水  
 焚籠  
 夏後  
 若老  
 宮外  
 舟舟  
 上毛  
 ちせめ  
 竹良  
 松江  
 竹舎  
 浪兄  
 由雀





春雨

吹<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>を吹<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>程<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>ー<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>ね<sup>カ</sup>風<sup>カ</sup>  
 と<sup>カ</sup>ち<sup>カ</sup>向<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>ア<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>け<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>ー<sup>カ</sup>春<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>風<sup>カ</sup>  
 梅<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>子<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>吹<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>ち<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>  
 君<sup>カ</sup>折<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>ー<sup>カ</sup>紅<sup>カ</sup>小<sup>カ</sup>袖<sup>カ</sup>自<sup>カ</sup>少<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>春<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>風<sup>カ</sup>  
 春<sup>カ</sup>風<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>吹<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>雨<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>つ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>  
 春<sup>カ</sup>風<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>遊<sup>カ</sup>む<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>清<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>ね<sup>カ</sup>山<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>海<sup>カ</sup>  
 空<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>日<sup>カ</sup>和<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>ふ<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>風<sup>カ</sup>  
 春<sup>カ</sup>風<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>梅<sup>カ</sup>ー<sup>カ</sup>春<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>春<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>吹<sup>カ</sup>  
 春<sup>カ</sup>風<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>池<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>家<sup>カ</sup>二<sup>カ</sup>折<sup>カ</sup>  
 雨<sup>カ</sup>二<sup>カ</sup>日<sup>カ</sup>降<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>春<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>折<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>日<sup>カ</sup>程<sup>カ</sup>  
 春<sup>カ</sup>雨<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>湯<sup>カ</sup>え<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>病<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>根<sup>カ</sup>落<sup>カ</sup>汁<sup>カ</sup>  
 春<sup>カ</sup>雨<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>名<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>持<sup>カ</sup>ー<sup>カ</sup>京<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>山<sup>カ</sup>  
 空<sup>カ</sup>左<sup>カ</sup>

本地伊保

下蒲

春<sup>カ</sup>雨<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>松<sup>カ</sup>向<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>春<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>之<sup>カ</sup>  
 加<sup>カ</sup>茂<sup>カ</sup>川<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>湯<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>春<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>雨<sup>カ</sup>  
 引<sup>カ</sup>緒<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>梅<sup>カ</sup>ー<sup>カ</sup>梅<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>雨<sup>カ</sup>  
 た<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>お<sup>カ</sup>推<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>ー<sup>カ</sup>春<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>白<sup>カ</sup>  
 空<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>塵<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>水<sup>カ</sup>ー<sup>カ</sup>春<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>雨<sup>カ</sup>  
 春<sup>カ</sup>雨<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>月<sup>カ</sup>子<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>名<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>ス<sup>カ</sup>せ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>降<sup>カ</sup>  
 空<sup>カ</sup>鳴<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>改<sup>カ</sup>本<sup>カ</sup>地<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>煙<sup>カ</sup>縁<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>折<sup>カ</sup>  
 皆<sup>カ</sup>牛<sup>カ</sup>馬<sup>カ</sup>身<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>本<sup>カ</sup>地<sup>カ</sup>煙<sup>カ</sup>縁<sup>カ</sup>  
 閑<sup>カ</sup>静<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>本<sup>カ</sup>地<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>煙<sup>カ</sup>縁<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>  
 下<sup>カ</sup>蒲<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>湯<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>雨<sup>カ</sup>  
 下<sup>カ</sup>蒲<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>梅<sup>カ</sup>雨<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>梅<sup>カ</sup>ー<sup>カ</sup>日<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>  
 下<sup>カ</sup>蒲<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>湯<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>梅<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>子<sup>カ</sup>後<sup>カ</sup>  
 竹<sup>カ</sup>良<sup>カ</sup>  
 道<sup>カ</sup>里<sup>カ</sup>  
 梅<sup>カ</sup>女<sup>カ</sup>  
 空<sup>カ</sup>左<sup>カ</sup>  
 空<sup>カ</sup>隱<sup>カ</sup>  
 宇<sup>カ</sup>山<sup>カ</sup>  
 吟<sup>カ</sup>風<sup>カ</sup>  
 下<sup>カ</sup>早<sup>カ</sup>  
 末<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>  
 梅<sup>カ</sup>女<sup>カ</sup>  
 梅<sup>カ</sup>女<sup>カ</sup>







青柳

椿

春の柳は日々にさかすまもぬき柳代  
 海山よりたれも又よき柳う那  
 うきうきもはゆきまを尋る柳水  
 柳の柳よふ柳の根うを 柳  
 繫たる舟も柳の又伝う那  
 小舟日又ぬれぬりも 柳  
 意ををさきりまをさす柳 柳  
 青柳や影を人おささきりまを  
 柳よもさくいとぬくち青きりり  
 春柳やまをささきりまをぬぬの裏  
 古路の庭生まをささきり 柳 まく  
 まくまははをささきりまをぬぬの裏

長老 十巻 寛左 竹良 北山 涼許 宇山 守仙 傳耳 旭石 井大 住芳

田打 畑打

春の柳は日々にさかすまもぬき柳代  
 海山よりたれも又よき柳う那  
 うきうきもはゆきまを尋る柳水  
 柳の柳よふ柳の根うを 柳  
 繫たる舟も柳の又伝う那  
 小舟日又ぬれぬりも 柳  
 意ををさきりまをさす柳 柳  
 青柳や影を人おささきりまを  
 柳よもさくいとぬくち青きりり  
 春柳やまをささきりまをぬぬの裏  
 古路の庭生まをささきり 柳 まく  
 まくまははをささきりまをぬぬの裏

露山 暁波 泰嘉 柳木 花兄 寒左 芳術 笑山 有保 長一

山葵

畑ちりや方々系遊々子入も 永株

山水の清きくやう山葵くれ 福夕

暮とれを冬の冬さう山葵代 竹良

残の多は那も深き山葵代 竹良

赤く暮し出る福信の白くれ 減重

赤との子不せよやれ福信ゆい 卜子

小住のを深川く白魚ま 石毛

りりやや白魚時の御 子り 源坪

白魚や一個の散らき 左岳

赤く魚や翁たまさう那々の納り 彦水

赤く魚や那を秀の秀り 五 姑良

水言しきそのよ白魚よあられ 桂園

獨活

白魚

猫の戀

白魚や出入りき川 漢 守小

たしねきをその馳走の白魚代 画亭

赤く魚や深い一色のまらき 半仙

漆多や初まら魚の旅ひき 号笠

控く痛く何それあうり猫の恋 等哉

忘猫の嬉しくあよまら女は板 寸稻

咳のそらも那くく猫の恋 大板 朱秀女

忘猫の川まら妙く思ひり那 子 姜陽

ありきまら浦風吹くくこれ猫 杜 叢

出まらう然るき名を立ん猫の妻 子 粗衣

雨の日もあまをなれ猫の恋 上サ 江

忘猫のむらまらくね佳く外 対 几

鶯

雲雀

雀等も今を仲写さるる  
 耳も眼もと母之閑う一  
 吟くを外を枝野よる  
 鶯鳴や田おこまらる  
 雨いと歎日和をひく  
 雲雀鳴や招りおり  
 雛をき船の音接や  
 午を學めそ可く  
 初まきと招くや  
 吟ひたり

寧左  
 寧州  
 枝山  
 杜叢  
 寧左  
 寧州  
 芳川  
 旭石  
 吟風  
 寧左

駒鳥

轉

駒鳥も今を仲写さるる  
 耳も眼もと母之閑う一  
 吟くを外を枝野よる  
 鶯鳴や田おこまらる  
 雨いと歎日和をひく  
 雲雀鳴や招りおり  
 雛をき船の音接や  
 午を學めそ可く  
 初まきと招くや  
 吟ひたり

寧左  
 寧州  
 枝山  
 杜叢  
 寧左  
 寧州  
 芳川  
 旭石  
 吟風  
 寧左

海苔

二三下まじりて以てり 去、去、去  
 柄も不ぬまじりてや考す 餛飩の卵  
 紋の考すまじりてり 貝  
 海苔のまじりてり 収せり  
 名もまじりてり ねあふり海苔  
 厚くまじりてり 海や海苔の考す  
 海苔のまじりてり 本根 根  
 味海苔や世のしりてり 随ひてり  
 海苔のまじりてり 海と料理  
 玉形や海苔海苔も 深もまじり  
 日よまじりてり 本根少  
 試や本根のまじりてり あり海苔

草 葉  
 荷 葉  
 葉 左  
 山  
 葉 花  
 一 所  
 カ 根  
 山  
 葉 左  
 女  
 葉 所

若和布

二日灸

収りやあわり 名や糖り海苔  
 海苔根 癖りてり やりてり  
 海産の考す味ふ 本和布の卵  
 白根のよけりてり 理のあ和布り  
 旅好の旅り支度や 二日灸  
 幸又ゆりおとや 二日灸  
 やりてり ねあふりてり 二日灸  
 又まじりてり ねあふりてり 二日灸  
 親の先まじりてり 二日灸  
 去まじりてり 去も味りてり 二日灸  
 初午や初命りてり 筋の町まじりてり  
 初午や初命りてり 筋の町まじりてり

収 見  
 出 葉  
 遠 葉  
 松 鳩  
 一 次  
 下 葉  
 喜 旗  
 カ 加  
 寿 櫻  
 二 葉  
 カ 葉  
 谷

初午



春宵

春の宵はささやけにや西の忌

一 次 吉小

春の宵はささやけにや西の忌

乙 歌

春の宵はささやけにや西の忌

三十九 浮舟

春の宵はささやけにや西の忌

四十 三遊

春の宵はささやけにや西の忌

四十一 年

春の宵はささやけにや西の忌

四十二 岳

春夜

春の夜はささやけにや西の忌

良大

春の夜はささやけにや西の忌

袋物

春の夜はささやけにや西の忌

丈孫

春月

春の月はささやけにや西の忌

三十九 湖

春の月はささやけにや西の忌

四十 湖

朧月

朧の月はささやけにや西の忌

朧舟

朧の月はささやけにや西の忌

高志

朧の月はささやけにや西の忌

下早

朧の月はささやけにや西の忌

志

春の空

臙夜

春の空  
 春の空は青く  
 雲は白く  
 鳥は自由に  
 飛び交う  
 風は優しく  
 吹く  
 大地は緑色に  
 染まり  
 花は咲き  
 散る  
 春の空は  
 希望の空  
 春の空は  
 夢の空  
 春の空は  
 愛の空  
 春の空は  
 生命の空  
 春の空は  
 希望の空  
 春の空は  
 夢の空  
 春の空は  
 愛の空  
 春の空は  
 生命の空

春

春の空は青く  
 雲は白く  
 鳥は自由に  
 飛び交う  
 風は優しく  
 吹く  
 大地は緑色に  
 染まり  
 花は咲き  
 散る  
 春の空は  
 希望の空  
 春の空は  
 夢の空  
 春の空は  
 愛の空  
 春の空は  
 生命の空  
 春の空は  
 希望の空  
 春の空は  
 夢の空  
 春の空は  
 愛の空  
 春の空は  
 生命の空

弥生

三月之部

弥生三月之部

上 免 弱





焼野

いたつたれ焼火のあつた後日  
吹風もほれぬ不甲の焼野  
焼つたれ焼野の焼くもつたれ

太年  
一羽  
子葉

五加木

摘足しそ 枸杞も所々五加木  
物もへそ 青き鳥鳴き五加木  
管もへそ 吹つたれ人よ五加木

号笠  
車旗  
松旗

種

種 節  
り紅糸もつたれ 浮き種節  
そつたれもつたれ 水や種節

ト風種  
ト早

苗伐

雨風を吸つたれ種節  
度つたれ 梅を又あつたれ種節  
苗伐や 種つたれ 水か波

臺左  
臺雨  
臺山

菊苗

菊苗や 方々一ぼし種つたれ  
菊も 菊の老の事思つたれ  
折も 折つたれ 菊の苗

折木  
下江  
子旗  
梅女

帚杖

古師の 帚杖をき 文う節  
帚杖の 山吹の 旗をき  
帚杖や 節つたれ 地振つたれ

赤旗  
布白

野蒜

摘合の 蒜の 葉や 仲間  
折つたれ 折つたれ 折つたれ

赤所  
赤所

摘草

摘草の 葉も 折つたれ  
摘草の 葉も 折つたれ

青山  
桃仙

枸杞

枸杞よ 折つたれ 山の種

南長

狗脊

狗杞梅や一豆片の梅種

末子

狗脊や日南まう紅山の種

自省

狗脊や色ぬううま山の種

桃仙

机ゆえや紅梅の種

小栽

紅梅やまのうううぬ赤の種

味陣

紅梅の種

杜若

紅梅の種

梅壽

紅梅の種

梅壽

紅梅の種

梅壽

紅梅の種

梅壽

紅梅の種

梅壽

接木

種をとりて接木の種

梅壽

蕨

芦の角

種をとりて接木の種



糸櫻

桜より遅れ枝ぐり糸ささく

池水

谷間にもよき高所にも糸櫻

ト早

芽花

枝ぐり出ると来ぬ芽花くれ

上杉

ささきささく不竹芽花汁

三川

枝の癖は月欠の芽花くれ

客左

終極の芽花くれ

松女

雨の芽花くれ

客左

芽花くれ

客左

芽花くれ

客左

芽花くれ

客左

芽花くれ

客左

桃

桜より遅れ枝ぐり糸ささく

谷間にもよき高所にも糸櫻

枝ぐり出ると来ぬ芽花くれ

ささきささく不竹芽花汁

枝の癖は月欠の芽花くれ

終極の芽花くれ

雨の芽花くれ

芽花くれ

芽花くれ

芽花くれ

芽花くれ

芽花くれ

客左

竹の秋

竹の秋

客左

三月菜

三月菜

客左

三月菜

客左

三月菜

客左

三月菜

客左

三月菜

客左

三月菜

客左

菜の花

菜の花

客左

菜の花

客左

菜の花

客左



春鳥

雛子

雀

孕雀

松雀鳥

鳥の巢

朝鷹

初蛙

猶もけけ池もたふしけきぬ

鳴止る下も只もけけけきぬ

あふも鳴りしもけけけきぬ

子をけけけけけけけけけ

雀子もけけけけけけけ

はかばか子孫の樹もけけけ

まわてふ人々もけけけけ

あふもけけけけけけけ

一日石の宮もけけけけ

あふもけけけけけけけ

あふもけけけけけけけ

あふもけけけけけけけ

雀子

雛子

雀

孕雀

松雀鳥

鳥の巢

朝鷹

初蛙

あふも

あふも

あふも

あふも

あふもけけけけけけけ

あふも





馬刀

山々おきしを甚き田圃の所  
籠らるる田圃の所  
鳴田の所

手抄  
左  
史  
民

落角

指させし馬刀の所  
名を知りし刀を  
馬刀の所  
指さしし馬刀の所

山  
史  
布  
左

紺繪

部名手は指しし  
紺繪の所  
手生頭  
盗人の所

宇  
山  
早  
風

梅若祭

順の峰

御身拭

茅草色の白ふ中より壬生様  
はらりる旅人はぬや壬生様  
坊しをたてし所の具也、壬生様  
散るををく玉梅若祭の所  
梅柳塚もあやしくありし所  
是をたてし所  
峰入の所  
峰入の所  
峰入の所  
世に老てきたる所  
壬生様の所  
壬生様の所

千  
左  
秋  
左  
早  
早  
早  
早









暮をくむ世に始る人やは是のり  
 白いあまのふりぬり志のり  
 春限りを海ぬやうぬり 是を  
 春まをく 初と春一う 是のり  
 是ちや 花をく人う 起 是のり  
 新うねー 咲く春花命 是を  
 送り出さ 冥社まうや 是の陰  
 足ぬさや 雨ナリ和も 是七白  
 妙う 浮きまをく 石の頂ま 是の重  
 秘をまをく 咲く春水う 吟うり  
 袋中まをく 春のり 是の春あは  
 是 撰く 春まをく 春まをく 春まをく

舟 白 可 暮 雨 竹 一 依 兄 之 引 不 朽 尚 有 富 水

櫻

是のり 人のちうく 春うね  
 是のり 月を 仰向く 是のり  
 ちうく 春のり 桜うね  
 日毎 春のり 桜うね  
 桜のり 桜うね 暮るる  
 桜のり 風も吹く 夕のり  
 桜のり 桜うね 暮るる  
 春のり 暮るる 夕のり  
 春のり 暮るる 夕のり  
 春のり 暮るる 夕のり  
 春のり 暮るる 夕のり

松 山 吾 山 村 凡 女 良 閑 茶 暮 左 暮 女 千 葉 二

下々々々 雲の上 煙の山 ささ

十 雲

雨上 虹々々 虹々々 虹々々 虹々々

雲 左

雲の子 虹 人々 虹々々 虹々々 虹々々

雲 左

種 竹 雲 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

山の名ハ 虹々々 虹々々 虹々々 虹々々

雲 左

夕雨の 虹々々 虹々々 虹々々 虹々々

雲 左

小 米 雲 雨 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

辛 夷 ささ 藤 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

雲 上 藤 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

雲 上 藤 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

種 雲 の 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

補花

石 持 雲 や ささ 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

石 持 雲 や 藤 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

下 下 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

名 上 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

藤 上 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

藤 上 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

丸 形 雲 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

海 棠 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

海 棠 の 風 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

海 棠 の 色 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

海 棠 や 藤 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹

雲 左

海棠

踊躑

連翹

茶摘

是初やいけちししむき 茶のふり  
 色翻や何處うすくも枝まうり  
 山吹の茶ふき 里の茶摘りぬ  
 柔畑へあいのふき 茶摘りぬ  
 初袂茶と人よりくく 茶摘りぬ  
 茶の種茶摘の中へまねけりり  
 字治の里茶摘の口和みきりり  
 池の茶摘りぬ 茶の茶  
 藤白一軒茶 藤の茶  
 茶摘りぬ 藤の茶  
 恒畑の茶摘りぬ 藤の茶  
 茶摘りぬ 藤の茶

市白  
 字山  
 春湖  
 茶女  
 杜良  
 懐山  
 里丸  
 別九  
 界山  
 緑山  
 住園  
 茶心

豚

山吹

藤さきや茶の口粒のふり限り  
 水けさく 茶のちまや藤の茶  
 藤柳や水汲人の茶まうり 乃  
 恒外を玉大河茶 藤の茶  
 山吹や 茶の茶まうり 藤の茶  
 北峰 茶の茶まうり 藤の茶  
 茶の茶まうり 藤の茶

大井  
 茶女  
 私道  
 不朽  
 寧左  
 磨杜  
 百川  
 秋峰  
 茶女  
 茶女  
 茶女

草





爐塞

炉塞の口は 秋の香の多き 登り即

上本 寧左

試糸

試糸の糸は 秋の香の多き 登り即

寧左

鞞靴

鞞靴の糸は 秋の香の多き 登り即

吹風 女

別霜

別霜の糸は 秋の香の多き 登り即

半窓 竹 美

舟に坐す 舟に坐す 舟に坐す 舟に坐す

寧左

惜春

惜春の糸は 秋の香の多き 登り即

梅女 耕石

舟に坐す 舟に坐す 舟に坐す 舟に坐す

竹 母

舟に坐す 舟に坐す 舟に坐す 舟に坐す

寧左

行春

行春の糸は 秋の香の多き 登り即

寧左

行 喜の 終る けを き 流 せり 卯  
行 喜より うへへ ぬ 小 高 取 れ 卯 至  
うへへ と 終 け 喜より 去り 卯 至  
中 喜を けりし 持 けり 卯 至  
行 喜や 持 けり ぬ 卯 至 山 の 色  
行 喜を 終る の 終り 池 の 色  
行 喜の 苗 中 や ぬ 卯 至 卯 至  
端 端 端 の 持 除 や 喜 も 卯 至

五月之部

何 や 喜の 蝶 の 来 き 卯 至 卯 至  
夕 喜の 卯 至 の 雨 卯 至 卯 至

卯 至 卯 至 卯 至 卯 至 卯 至  
卯 至 卯 至 卯 至 卯 至 卯 至  
卯 至 卯 至 卯 至 卯 至 卯 至  
卯 至 卯 至 卯 至 卯 至 卯 至

幟

粽

柏餅

初 雨 の 晴 け 卯 至 卯 至  
又 卯 至 の 幟 を 持 卯 至  
卯 至 の 持 けり 卯 至

卯 至 卯 至 卯 至 卯 至 卯 至  
卯 至 卯 至 卯 至 卯 至 卯 至  
卯 至 卯 至 卯 至 卯 至 卯 至  
卯 至 卯 至 卯 至 卯 至 卯 至

菅蒲葦

形平又於... 柏餅  
 ... 梅  
 ... 仁  
 ... 仙  
 ... 里  
 ... 父  
 ... 月  
 ... 岳  
 ... 引

神水

藥降

競馬

大矢數

印地打

更衣

... 布  
 ... 山  
 ... 仁  
 ... 末  
 ... 蓬  
 ... 美  
 ... 左  
 ... 月  
 ... 仁  
 ... 白









櫻の實

若葉

桑梅の葉よりきりの形に似  
 焚捨の世宴とあわれむ櫻の葉  
 何れは日とよ味とたしぬ櫻の葉  
 交さすやゆきも味もさすぬ櫻  
 若葉村みやこのきりり出ぬり  
 ともくとも平々月の若葉くれ  
 口もるも世をぬる葉の木陰  
 其葉は折れぬ根柢のわら屋くれ  
 掃わぬ朝のちや置くわつとも  
 滄苔のわらもさすともさす  
 海陰の山の表やむらわら葉  
 むらわらのそれとちさすとも葉くれ

竹舎  
 色水  
 水  
 二  
 下  
 山  
 外  
 仙  
 子  
 之

木下

若

若楓

形はく枝山ゆき若葉時  
 先事またく若葉の葉下柳  
 言よりもるの若葉の枝くれ  
 深きぬき垣根はくこの若葉くれ  
 潮をのちのゆきりよ若葉 教  
 ふりたりとも風ゆき若葉くれ  
 枝に枝よりき枝若葉くれ  
 若葉の若や風の色吹く若楓  
 若楓の若の若の若より若  
 若葉の若の若の若の若  
 若葉の若の若の若の若  
 若葉の若の若の若の若

木下  
 風  
 葉  
 左  
 葉  
 左  
 葉  
 左  
 葉  
 左  
 葉  
 左

病葉

しつゝ葉のたゞとちや草竹

南山

わくゝ葉のたゞとちや草竹

本洞

わくゝ葉のたゞとちや草竹

寧左

しつゝ葉のたゞとちや草竹

寧山

新樹

青のたゞとちや草竹

對几

降のたゞとちや草竹

梅女

和のたゞとちや草竹

閑茶

茂

所のたゞとちや草竹

不角

茂のたゞとちや草竹

清山

四五のたゞとちや草竹

五儀

木下閣

下閣のたゞとちや草竹

寧左

夏木立

何のたゞとちや草竹

枕水

駕のたゞとちや草竹

少重

亭のたゞとちや草竹

山後子

名のたゞとちや草竹

寧左

蒼海のたゞとちや草竹

紅雲

際のたゞとちや草竹

休通

昔木のたゞとちや草竹

休通

卯の花

卯の花のたゞとちや草竹

休通

月代のたゞとちや草竹

休通

うねのたゞとちや草竹

休通

うねのたゞとちや草竹

休通



杜若

竹の子の葉先より竹の月 ふし 折  
 竹の子や 重なる竹の音 ふし 竹勢  
 竹の子や 追々々々 出づ 林の中 寧 左  
 竹葉十葉 ねん葉之 葉子 南 龍  
 夕暮や 竹不之 又之 出づ 杜若 黄 上  
 夕暮や 竹不之 又之 出づ 杜若 木 南  
 夕暮や 竹不之 又之 出づ 杜若 共 杏 高  
 夕暮や 竹不之 又之 出づ 杜若 美 山  
 夕暮や 竹不之 又之 出づ 杜若 東 湖  
 夕暮や 竹不之 又之 出づ 杜若 一 坊  
 夕暮や 竹不之 又之 出づ 杜若 名 月  
 夕暮や 竹不之 又之 出づ 杜若 竹 種

花菖蒲

花菖蒲の葉先より花の月 ふし 折  
 花菖蒲の葉先より花の音 ふし 竹勢  
 花菖蒲の葉先より花の音 寧 左  
 花菖蒲の葉先より花の音 南 龍  
 花菖蒲の葉先より花の音 黄 上  
 花菖蒲の葉先より花の音 木 南  
 花菖蒲の葉先より花の音 共 杏 高  
 花菖蒲の葉先より花の音 美 山  
 花菖蒲の葉先より花の音 東 湖  
 花菖蒲の葉先より花の音 一 坊  
 花菖蒲の葉先より花の音 名 月  
 花菖蒲の葉先より花の音 竹 種

芥子

芥子の葉先より花の月 ふし 折  
 芥子の葉先より花の音 ふし 竹勢  
 芥子の葉先より花の音 寧 左  
 芥子の葉先より花の音 南 龍  
 芥子の葉先より花の音 黄 上  
 芥子の葉先より花の音 木 南  
 芥子の葉先より花の音 共 杏 高  
 芥子の葉先より花の音 美 山  
 芥子の葉先より花の音 東 湖  
 芥子の葉先より花の音 一 坊  
 芥子の葉先より花の音 名 月  
 芥子の葉先より花の音 竹 種

花

持くさるの持よりけり  
 一吹く風の吹きも  
 宵闇七志のわがや  
 飛を降散らす  
 持を芥子持人  
 散らす  
 又古まわ  
 白く  
 八  
 乙  
 水  
 又

下  
 草  
 色  
 縁  
 告  
 守  
 舟  
 芳  
 室  
 吹  
 女  
 清  
 山

葱

席耳草

紅の茎より

席耳草

五月

香を先

五月

落

芳を先

五月

美人草

紅の茎より

美人草

一八

一八や

一八

一八

一八や

一八

玉巻  
芭蕉

玉巻

玉巻



夏 菴

暑より暑を不二より定より席より雨  
ととりの白粒きあたらをくきり

未成 墨雨

夏 書

夏菴や若しゆりき 注ゆれ  
夏あたりや日影をやふおの影

十 海 魚

夏 夜

友籟や石よりきりり 虹の音  
白の玉はゆきまの偏心 友書は

十 早

短 夜

草のうきく 草を休むる 友まゝに  
根ますれはも 雨さきと 友まゝに

下 水

新夜は 春の 満定まゝ 夜は 雨  
あつた 根より 草を 寝る 時 夜は 雨

十 花

明 易

みしり 枕し 伸る 写の 所り 子の了

琴 颯

鐘 杵 や 枕し 言の こと あり け  
鐘 杵 の うき 草を 寝る 所

夏 夜

魚の 岸 や けり 根を 寝る とき  
ゆきま 草を 寝る とき

墨 雨

ゆきま 草の ら ま 草や 時計 窓  
ゆきま 草の ら ま 草や 時計 窓

杜 貴

ゆきま 草の ら ま 草や 時計 窓  
ゆきま 草の ら ま 草や 時計 窓

美 山

十 分 月 弓 ぬき ゆき  
ゆきま 草の ら ま 草や 時計 窓

布 白

夏 夜

夏 夜 の 名 草 草 草 草 草 草 草 草

吹 風



















夏の山

横町へ行くは切世込む日午うれ 命三 山  
 海尻くく子の種うねる日午 上廿 粘  
 くく子ねえたりきく藤了日午 本末 不凍  
 杖と突るよむさくく日 本末 有傍  
 滝り布五尺何里てく夏山 本末 零左  
 茨多の赤うもくく夏山 本末 有赤  
 白雪を帯ぐ帯味より夏山 陸中 巨水  
 之那折ねー色く心く夏山 本末 湯山  
 蒼ぬりく月も出たり夏山 本末 宇山  
 望ふふくくくへ那り夏山 本末 山  
 雨くくくくくく夏山 本末 山  
 さくくくくくく夏山 本末 山

夏野

夏月

夏の露

表くと吹や夏野の細水風 二休  
 をし歩や端後時の夏月 祭玉  
 初戸出の宮や夏月 洋く  
 夏の月を桶と持て夏月 妻梅  
 ぬき巻のう人や夏月 本末  
 けくくくくくく夏月 本末  
 森をくくくくくく夏月 私乃  
 白くくくくくく夏月 之引  
 振くくくくくく夏月 碧水  
 新くくくくくく夏月 不系  
 ねくくくくくく夏月 乙類  
 松島や雄略を夏月 祭玉

夏の雨

あはせはけり 杖をゆきんり 夏の雨  
 海をよき降とてゆく 夏の雨  
 月と夕とをねむるや 夏の雨  
 よく又きいぬは 夏の雨  
 そとよとてかきよや 夏の雨  
 夏めき——そのおりの竹の子  
 夏初をききし 夏の雨

出 毒  
 寒 左  
 二 休  
 存 右  
 對 几  
 起 室

夏

六月

六月之部  
 六月紅朝彦降—— 相 水の  
 六月半より夏草の降る  
 六月や青や——まはれ 降る

水 水  
 竹 舎  
 氣 翁

入梅

船風

一志きり 六月言—— 傍 白  
 その藤の志をきり 入梅とゆふ思  
 名りの羽の舞うる 入梅より  
 入梅や心とりあはれ 春 夢  
 船りき入ぬ—— 入梅の時なり 春 左  
 春の夢の降るき 入梅の身 女  
 入梅時や木の言—— 風あり 蓬 仙  
 船風—— 言や 伏家の 夕 吟 吟  
 船風や又言—— 浮水 吟  
 船風や 春梅 原の 島 三十 古  
 船風や 八言—— 言 吟 吟  
 船風や 吟—— 吟 吟 吟

氣 來  
 文 礼  
 對 几  
 夢 左  
 春 左  
 女  
 蓬 仙  
 吟 吟  
 吟 吟  
 吟 吟  
 吟 吟  
 吟 吟  
 吟 吟

舊 松園會  
新 八坂祭  
八雲祭  
須賀祭  
夏祭

雨乞

嘉定

松園多や花さし〜〜〜町出り  
 松園多やむら〜〜〜の春祭  
 三ツ才多し子も松山なり夏祭  
 けりやけきそのち人集よ夏祭  
 世ふたき子さうり〜〜〜乗り柳  
 汗〜〜〜を〜〜〜を〜〜〜を  
 雨乞〜〜〜の口取と〜〜〜なり  
 雨乞やた〜〜〜〜〜〜〜  
 雨乞や沖雲の沖所を〜〜〜  
 乞〜〜〜雨降〜〜〜〜〜〜〜  
 春の雨は〜〜〜〜〜〜〜  
 いま〜〜〜〜〜〜〜

一 晴  
 素 明  
 竹 良  
 壽 木  
 柳 女  
 河 女  
 森 残  
 玉 採  
 汲 古  
 春 旗  
 之 引

雷の陣

御被

川社

形代

雷の陣や〜〜〜〜〜  
 雷の陣や〜〜〜〜〜  
 辰は多し〜〜〜〜〜  
 是弱多し〜〜〜〜〜  
 以水〜〜〜〜〜  
 細〜〜〜〜〜  
 取取〜〜〜〜〜  
 雨〜〜〜〜〜  
 陸〜〜〜〜〜  
 形代や〜〜〜〜〜  
 形代は〜〜〜〜〜  
 形代は〜〜〜〜〜

二 春  
 柳 仙  
 竹 仙  
 卜 早  
 石  
 移 石  
 私 義  
 森 給  
 之 引  
 春 祭  
 河 山  
 垂 石

田植

又さりぬ旅人まのき田植  
すこしりの遠ふ田植中村  
又さる居るハニ於き向く田植  
亦不足の徳向さる田植  
あふさる田植  
よくゆきさる田植  
いそろしきさる田植  
深きさる田植  
ま飯の味や田植  
控さる田植  
形さる田植  
人さる田植

芥舎  
三和  
地和  
如折  
直上  
精治  
一赤  
標資  
仁董  
三里  
雨

苗

苗名の先く隠さ田植  
田植頃さる田植  
控上子月さる田植  
まさる田植  
苗折さる田植  
五苗中移さる田植  
山ありさる田植  
苗破さる田植  
湯川さる田植  
折さる田植  
控さる田植

上中  
辰  
辰  
夕  
山  
幻  
虫  
三  
抽  
梅  
赤  
一  
吟  
早  
山  
竹  
呂  
字  
山

川骨

川骨や 花(はな) 片(かた) 日(ひ) 赤(あか) 山(やま)  
川骨や 打(う) 玉(たま) 海(うみ) 一(ひと) 川(かわ)  
川骨の 花(はな) や 花(はな) 玉(たま) 水(みづ) 花(はな) 身(み)

赤山 加石 桐月 星雨

藻の花

藻の花 石(いし) 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)  
藻の花の 石(いし) 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)  
藻の花も 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)

折長 英子

萍

萍(ひら) や 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)  
萍(ひら) や 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)  
萍(ひら) や 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)

上社 菊光 朱石 李石

忘草

忘草(わすれくさ) 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)  
忘草(わすれくさ) 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)  
忘草(わすれくさ) 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)

素菜 夏雨 星雨

紅の花

紅の花(べにのはな) 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)  
紅の花(べにのはな) 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)  
紅の花(べにのはな) 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)

之引 所水

百合

百合(はくげ) 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)  
百合(はくげ) 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)  
百合(はくげ) 花(はな) 身(み) 藻(も) の 花(はな) 身(み)

而泰 表舟

苔の花

昨百合や起し〜 及〜き苔の毛 吾七  
 百合さ〜や言〜 何〜も 阿〜さ〜ら 下廿  
 うらむら〜を吸 百合のす〜く 杖玉女  
 譯居よき 乃や 苔〜も 玉のさ〜 蓬宇  
 ま〜を〜 ねまぬ 庭や 苔は 玉 乙 歌  
 わ〜を〜 糸〜やう 糸〜の 玉 十 玉  
 世の子のふせも 穀物〜 苔の 玉 五 糸  
 沿〜ハ〜も 糸〜ん 苔の 玉 江  
 福〜れ〜さ〜ら 糸〜や 苔の 玉 カ 重 風  
 庭拵の糸お〜い〜 苔は 玉 仁 望  
 夜露や 玉を 浮〜き 糸の 玉 采 景  
 夜露や 玉よを 糸の 伸抑〜き 勢 地

夏菊

撫子

石菖

金銀花

合歡花

夏露や 糸際を 糸も 露さ〜 廿五  
 夜露や 秋の糸も 糸は 玉 採  
 夏露や 糸を 三りの 糸〜 耕 石  
 庭保姉の糸や〜 糸〜の 杖玉子 藤 汲  
 糸〜 糸や 糸〜も 糸〜 所 有 糸  
 杖玉子 糸や〜 糸〜も 玉も 又 蓬 玉  
 杖玉や 優〜 糸〜 杖 先 何 足  
 石菖や 何〜も 糸〜も 糸〜 庭 時  
 石菖や 糸〜の 糸〜も 杖の 糸〜 杖 圃  
 糸〜の 糸〜も 糸〜も 金 糸〜 上 廿 露 衣  
 芳子と 糸〜の 杖玉〜 糸〜 杖 聚  
 合歡 糸〜も 糸〜も 杖 夕 日 糸 蓮 水

栗の花

交指いのらさしとまりや合指のま  
 本さううねま又吹たり合指のま  
 庭又果う口陰の歩むく合指のま  
 合指吹くさう作くや夕習る  
 葉多々々葉をささく合指のま  
 一本は移を葉もささく栗のま  
 吹くくも竹庭ま——さうはま  
 本葉うう葉根の吹くさ栗のま  
 色中のほ葉さちやさうはま  
 花も花枝のほき板橋うれ  
 葉うあうさの溜りう花板橋  
 葉橋やうはむくさの吹く一葉内  
 一 時  
 竹舎  
 十 保  
 五 友  
 二 休  
 大坂  
 五 待  
 五 日  
 五 山

柘榴花

桑摘

青梅

青柚

茄子

葉の桑や柘榴花の油新のねきさ  
 青柚や葉うううう——吹うう  
 青柚や葉し葉のまううう  
 青梅うう吹の葉のううく世——外  
 青柚やうはむくさの枝うまう  
 青柚やまの枝うううはまう  
 袖のまのううせ——青柚のねまう  
 さうける庭をうううう青柚うれ  
 さうくも葉さうう葉ううう  
 初前を——さうううううう  
 葉葉をうううううううう  
 まううううううううう  
 月新  
 馬城  
 仁見  
 不 退  
 私 妻  
 遊 糸  
 宇 山  
 五 友  
 五 日  
 三 友

今年竹

雷の音と 相中 土門 高き山  
切そのまゝの 竹の ちりちり 竹の 音

松 美 柳 長

古く竹 葉子の 雀 遊ば けり

二 曲 在 卷

風の 根を 不付出 けり けり けり

葉 光

春よ 竹よ 言う けり けり けり

石 老

若竹

若竹 中 風の 音 けり けり けり

雪 水

若竹 中 移し けり けり けり

雪 出

若竹 中 の けり けり けり

松 在

若竹 中 田 田 けり けり けり

松 在

若竹 中 色 けり けり けり

松 在

蟬

鳴 けり けり けり けり けり

竹 良

初 蝉 の 鳴 けり けり けり

真 菜

堰 の 水 の 係 係 けり けり けり

高 菜

松 上 の 竹 竹 竹 竹 竹

清 耳

鳴 けり けり けり けり けり

部 園

除 竹 の 音 の 音 けり けり けり

若 者

分 入 せ けり けり けり けり けり

松 山

蝉 鳴 けり 草 木 の 音 けり けり けり

竹 几

た けり けり けり けり けり

竹 山

夜 けり けり けり けり けり

野 平

竹 引 けり けり けり けり けり

西 古

浮 葉

あ けり けり けり けり けり

竹 葉

水 鶏

月影をわくく崩き浮蓮う柳 湖を  
 雉の葉を除くさしを舟の楫 風係  
 ぐらぐらと揺れもむらうとと浮葉は 乍若  
 浮葉はよく着認め舟の掛くさうら 秋美  
 その香を背伸してさるお鶴は 左羅  
 るのねよりきくはたしくお鶴は 鹿川  
 長くねねを又たたしくお鶴は 誅重  
 田よきき字よとちりる聞お鶴は 月窓  
 雲よすくお鶴はをを思いうる かに再也  
 入相の鏡を相聞お鶴は 守一  
 阿子田をけけお鶴は 收之  
 宵更や今叶たお鶴は 未吉女

羽 抜 鳥

鹿の子

すくくおを隠さぬお鶴は 湖邊  
 子の尺のねをゆりお鶴は 梅女  
 お鶴はやお鶴はをを思いうる 秋村  
 着けおを思いうるお鶴は 不  
 お鶴はをを思いうるお鶴は 秋美  
 此お人をを思いうるお鶴は 九石  
 人お鶴はを思いうるお鶴は 星雨  
 木のるのねをを思いうるお鶴は 布靴  
 お鶴はをを思いうるお鶴は 乙靴  
 言をを思いうるお鶴は 鹿子う柳 石室  
 針をを思いうるお鶴は 鹿子う柳 秋係  
 宮城の針をを思いうるお鶴は 鹿子う柳 秋方





